

国民年金の最適な受給開始年齢の検証*

～平均・分散アプローチを用いた分析～

1230482 田中我空

指導教員 草川孝夫

研究背景

国民年金の老齢基礎年金の受給開始年齢は、2023年2月現在、原則65歳であるが、希望者は繰り下げ受給や繰り上げ受給を選択することができる。繰り下げ受給（繰り上げ受給）を選んだ場合、その分、受給できる年月が減る（増える）代わりに、1年あたり8.4%増やされた額（4.8%減らされた額）を、死亡するまで受給できる。そのため、自身が死亡する年齢を事前に知らない各国民は、受給期間の減少と受給額の増加のトレードオフを考慮に入れながら、自身にとって最適な受給開始年齢を選択しなければならない。

研究目的

受給期間の減少と受給額の増加のトレードオフを考慮に入れながら、自身にとって最適な受給開始年齢を選択する方法を検討する。

研究方法

まず、厚生労働省が発表している生命表の死力を用いて、受給開始年齢ごとに受け取れる総年金額の確率分布を求める。それらの分布から、受給開始年齢ごとの、受給総額の期待値と標準偏差を求め、平均・分散ダイアグラム上で比較する。

分析結果

受給総額の標準偏差は、男女ともに、受給開始年齢を遅らせるにつれて増加する。一方、受給総額の期待値は、男性（女性）の場合は、受給開始年齢を69歳（72歳）まで遅らせるにつれて基本的には増加するが、それよりも遅らせると減少していくことが明らかになった。

結論

受給総額の標準偏差が少ないほど、そして受給総額の期待値が多いほど望ましいと考えるリスク回避的な国民を想定すると、男性（女性）は69歳（72歳）よりも遅らせて受給するべきではないことが明らかになった。そして、男性（女性）は、69歳（72歳）までの年齢の中で、リスク回避度が高い人ほど、受給開始年齢を早めるべきであることが明らかになった。

* 本研究の遂行にあたり、指導教官として終始多大なご指導を賜った、草川孝夫先生に深謝致します。ここに感謝の意を表します。